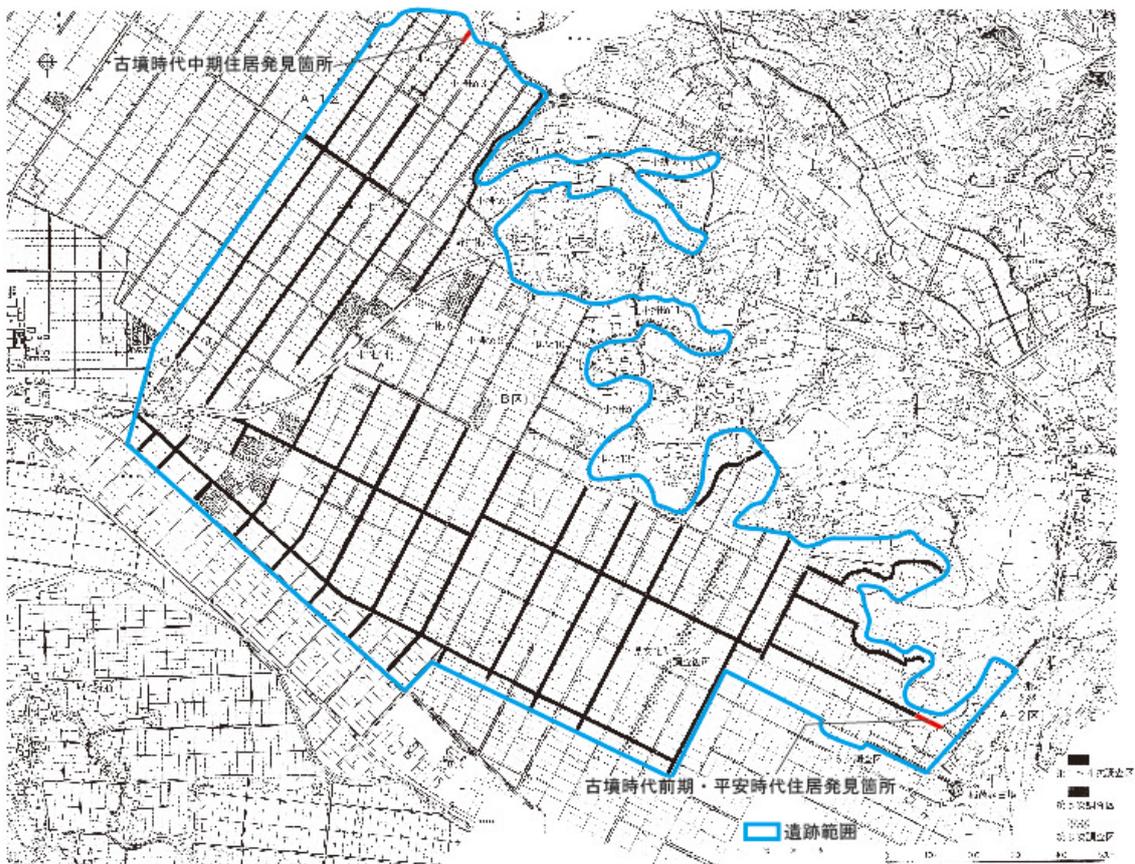


三箇遺跡群 —小櫃川中流域の微高地に営まれた古代の集落—

三箇遺跡群は、JR 久留里線東横田駅から馬來田駅間の北東側の水田に所在します。北流する小櫃川が西に流れを大きく変える小櫃川中流域右岸の標高 19～25m の低地から微高地に立地していることとなります。ほ場整備に伴い、昭和 59～63 年度にかけて発掘調査が行われました。

調査の結果、旧石器時代～中・近世にかけての遺物の他、古墳時代と平安時代の住居が発見されました。住居は遺跡北部と南東部の微高地部分で発見されました。これまでの調査で同時期の遺物が発見されていましたが、これらの遺物は微高地上にかつて存在していた集落に由来するものだった可能性が考えられます。

周辺の台地上には同時期の大規模な集落が存在していますが、低地の状況については調査例が少ないことからあまりよくわかっていません。そのような意味で、三箇遺跡群は低地から微高地にかけて所在する遺跡の貴重な調査事例となります。



三箇遺跡群全体図